

書評

[評者]

大西勝也

大西内科ハートクリニック



循環器研修テクニカルノート 心不全

臨床を上手に行うための
「頭と実地」のテクニック

樋口義治 著

● A5変形 頁 258 2016年9月

定価：本体 5,000 円＋税

[ISBN 978-4-89592-865-6] MEDSi 刊

高齢化に伴う高血圧、心房細動、虚血性心疾患の増加に伴い、心不全患者は著しい増加傾向にあり、いわゆるパンデミックな状態に陥ると危惧されている。心不全を専門としない循環器内科医、心臓外科医あるいは一般内科医も、心不全を治療しなければいけない時代に突入している。心不全の研究分野は、分子生物学的な手法で飛躍的に発展しているが、まだまだ未解決な部分が多い。その理由として、心不全の病態の多面性が挙げられる。実際、臨床現場では、いろいろな顔を持った心不全患者と遭遇する。それゆえに、しっかりとした心不全患者に対するアプローチを各自習得しておく必要がある。

著者は、豊富な臨床経験から、心不全の診療の“いろは”をこの本で教えてくれている。特別な病気ではなく、普通にみかける心不全に対する基本的な情報が網羅されている。特に、診察のアプローチなどは、心不全患者に初めて接する、あるいは不慣れた研修医の先生には参考になると思われる。どのように問診するか、ど

のように診察するかから、基本的な検査の意味、読み方をひとつひとつ、短い文章で説明しており、理解しやすいと思われる。後半では、急性期から慢性期につながる治療法も、わかりやすく記してあり、心不全に不慣れた医師にとっては、まとまった理解が得られやすい。心不全に対する病態生理に関しては、未確立なところにも言及しているため議論の余地は残るが、まだまだわかっていない分野に対して、著者の考えをうまく届けている。後半では、具体的な症例を提示し、それに対するアプローチを実践的に解説しており、著者の経験してきた臨床現場を垣間見るようで興味深い。

参考文献をみると、対象が研修医や後期レジデントと思われるが、心不全の診療を始めようとするには大変参考になると思う。レジデントマニュアルのような感覚で読み込むのがいいのではないか。心不全を専門とすることを考えていない医師にも、心不全の基本を知るためにはいい機会ではないだろうか。